

大学生のボランティア活動 ～「かながわ憲章」の実現に向けて～

鈴木 裕子

はじめに

第一回の研究会の帰路、桜木町からの電車の車中で考えた。大テーマは「かながわに生きる私たち」。例えばこの車内にいる私たち。共に生きるということ、ふと「かながわ憲章」が頭を過った。その時、車内の床を飲み残しのプラスチックカップが転がった。カフェオレのような液体は、電車の揺れに合わせて前後左右に広がった。居合わせた人々は見ても見ぬふり。迷惑そうな眼差しで災いが自分に降りかからないように場所の移動に忙しい。大人も若者も、親に連れられた子供も。

光景を目前に、何か事態が生じた時、それを主体的に考える気持ちは大人になるまでにどう育てることができるのであろうかという問いと今回のテーマ「かながわに生きる私たち」と頭の中で重なった。そうだ、調べてみよう。未来の「かながわに生きる私たち」に向けて。

かながわ憲章「ともに生きる」

2016（平成28）年7月26日、県立の障害者支援施設「津久井やまゆり園」において19人が死亡し、27人が負傷するという痛ましい事件が発生したことをきっかけに、神奈川県は「ともに生きる社会かながわ憲章」を定めた。

- ・私たちは、あたたかい心をもって、すべての人のいのちを大切にします
- ・私たちは、誰もがその人らしく暮らすことのできる地域社会を実現します
- ・私たちは、障がい者の社会への参加を妨げるあらゆる壁、いかなる偏見や差別も排除します
- ・私たちは、この憲章の実現に向けて、県民総ぐるみで取り組みます

「ともに生きる」こと、言葉では簡単だが、憲章を実現するには、「ともに生きる」ことを主体的に考えられる県民を増やさなければならない。

1：国内の状況

1-1 ボランティア活動

同じ時を寄り添い生きるに際し、ひとつのかたちとしてボランティアがあると思う。

厚生労働省社会・援護局の資料によるとボランティアの位置づけでは、「自発的な意志に基づき他人や社会に貢献する行為」を指してボランティア活動とし、活動の性格として「自主性（主体性）」、「社会性（連帯性）」、「無償性（無給性）」等があげられている。全国のボランティアセンターの把握しているボランティア数の総人口に占める割合は約6%で、担い手の中心は60歳以上の女性、10代、20代の参加がもっとも少ないのが現状である。

福祉分野のボランティアは、都道府県・政令指定都市及び市町村に社会福祉協議会によるボランティアセンターが設置され、活動に関する相談、登録、斡旋、広告啓発、各種の研修を実施している。国立教育政策研究所の基礎データによれば、2021（令和3）年度の各地のボランティアセンターの設置件数は、北海道96、福島60、埼玉、福岡59、愛知58と上位を占め、神奈川県は45で、東京は10、大分は2、和歌山は1である。

日本財団ボランティアセンター「全国学生1万人アンケート ～ボランティアに関する意識調査2023～」によると18歳～26歳の大学生の約60%がボランティア活動に興味はあるものの、実際に活動に参加するのはそのうちの20%程度だ。（PP3-7）

1-2 ボランティア活動の意義

厚生労働省によれば、ボランティア活動は個人の自発的な意志に基づく自主的な活動であり、活動者個人の自己実現への欲求や社会参加意欲が充足されるだけでなく、社会においてはその活動の広がりによって、社会貢献、福祉活動への関心が高まり、様々な構成員がともに支え合い、交流する地域社会づくりが進むなど、大きな意義を持っているとされる。

このボランティア活動を特に、青少年期に経験することは、自己形成に繋がり、個人と社会の両方に大きな価値を見出すことが出来ると言われる。ボランティア活動の意義の中でも、教育的意義を、子供でもなく大人でもなく、大人の自己形成期にある大学生に焦点を絞り考察を進めてみたい。

2：神奈川県内の状況

2-1 神奈川県における大学生の数

2023（令和5）年の文部科学省「各都道府県における高等教育の現状に関する調査研究 都道府県別基礎データ」によると、神奈川県の大学進学人数は45,536人（進学率59.8%）、内自県進学率は39.7%である。（P37）

また、政府統計の総合窓口（e-Stat）のデータによると、2024年（令和6）の神奈川県の大學生数は19,153人で、東京都、大阪府、愛知県に次いで神奈川県は大學生の多い県だ。

2-2 大学におけるボランティア

大学におけるボランティア活動の導入契機は、1995（平成7）年1月17日早朝に発生した阪神淡路大震災でボランティア元年と言われる。実際にボランティア活動に参加する学生や職員が更に学ぶ機会を求めて、大学内で履修科目としてボランティアを学ぶ講座を開設するなどが行われた。

その後、20年近い時間が経過し、各大学は独自の科目を立ち上げ、全国の4年制大学、短期大学、高等専門学校との3分の1強に何らかのボランティアに関する科目が開設された。力を入れている大学においては、更に学んだことの実践の場を提供するため、ボランティアセンターの設置なども進められた。

こうした経過を経て、学生達はボランティアを学ぶ機会を得ているが、教育的意義として大学の目指す「考えの異なる人とのコミュニケーション力や、自己管理、リーダーシップ、柔軟性、自己肯定感、社会的課題を理解・分析・調整する能力、論理的に他者に自分の考えを伝え、自分の考えを基に解決策を考案する能力などを高める基本的人間力等がどれほど養われているのかはまだ明らかにはなっていない。

2-3 神奈川県の大學生ボランティア状況

神奈川県内に所在する大学は54校あり、今回、各大学におけるボランティアに関する状況を調査した。結果、大学におけるボランティアセンターの設置件数が少ないことがわかった。（表①参照）

ボランティアに興味を持った学生を地域のボランティアセンターへ橋渡しをするに留まっている大学が多いのだ。つまり教育の一環としてボランティアへの価値を見出すに至っておらずボランティア経験の機会を後押ししている状況には程遠い。しかし、数校においては積極的なシステムが既に構築されていることも今回の調査でわかった。以下、主な大学の展開だ。

青山学院大学

2022（令和4）年4月、青山キャンパス、相模原キャンパスにシビックエンゲージメントセンターを構え、専門コーディネーターがボランティア活動をサポートしている。ボランティアの紹介に留まらず、学生の「やってみたい」をサポートすべく「災害・復興支援活動に対するサポート制度」も設けており、採択されれば、活動への旅費が補助される。他、大学での学びを地域や国際社会のフィールドでの活動に結びつけるための講座も受講することができる。

横浜市立大学

2015年（平成27）1月、ボランティア支援室を構え、学生が日常生活を飛び出して、さまざまな経験を積むことが出来る機会作りをサポートしている。支援室では、活動のコーディネート、学外から寄せられるボランティア募集情報の受付を行っている。「YCUボランティア・スタートアップ補助金」制度もあり、活動が承認されれば、上限5万円の補助金を受けることも可能だ。また、ボランティア証明書も発行され、在学中の社会貢献活動を可視化し、就職活動などのアピール資料として活用することもできる。

関東学院大学と連携し、所在する金沢区の「大学の活力を活かしたまちづくり～キャンパスタウン金沢～」にも取り組んでおり、これに対しても事業補助金制度を設け（上限20万円、補助対象経費の3分の2以内）支援をしている。

田園調布学園大学

2009（平成21）年4月、地域交流センターを構え、ボランティアの紹介・相談や外部団体との連携を行っている。ボランティア養成講座の35時間以上の受講により社会福祉入門（教養基礎1単位）に読み替える制度もある。

フェリス学院大学

2003（平成15）年4月にボランティア活動を通して学生と大学、社会をつなぐ役割を担うためボランティアセンターを学生参画型にて開設した。「For Others」の理念に基づき、学生自身が関心や問題意識を見つめ、じっくりと時間をかけて取り組む長期にわたる活動を推奨している。ボランティア活動の内容や時間によって単位も付与される。

明治学院大学

1998（平成10）年法人ボランティアセンターとして開設し、1999（平成11）年大学に移設。白金校、横浜校にそれぞれセンターを設置し活動をサポートしている。2007（平成19）年にはボランティア活動を自分たちで企画してみたが、必要な資金が無く実現できない学生へ「ボランティアファンド学生チャレンジ」と称した奨励金制度を導入している。ファンドとなるのは大学内生協等で販売している「支援グッズ」の売り上げの一部だ。

「明治学院大学ボランティア大賞」として大学の学びを深めながら社会課題に向きあい、学びと実践の双方で優れた成果を上げた活動への表彰も行い、教育理念である「Do For Others」を学内外に広く発信している。

これらの大学は、センターの設置に留まらず、より多くの学生にボランティア活動を通じた成長の機会を届けようとしていることが調査の過程を通じ感じられた。

神奈川県に所在する4年制大学のボランティア状況(表①)			
大学名	ボランティアセンターの有無	履修科目としての有無	備考
青山学院大学	○	○	シビックエンゲージメントセンター各種サポート制度あり(旅費などの補助)
麻布大学	×	×	ボランティアサークルのみ
桜美林大学	×	×	社会福祉ボランティア部の活動はある
神奈川大学	○	×	学生ボランティア活動支援室のスタッフには学生もいる
神奈川工科大学	×	×	「KAIT BLUE」という防犯に特化したボランティア団体はある
神奈川歯科大学	×	×	東南アジア支援団(KDU-SAS)の活動はある
鎌倉女子大学	×	×	校内にはボランティア活動のポスターは積極的に掲示している様子
川崎市立看護大学	×	×	「川崎リンクス」ボランティア活動はある
関東学院大学	×	×	学生支援室がボランティア活動を希望する学生の相談窓口となっている様子
北里大学	×	×	生活ガイドとして学生にボランティア情報を提供。他、病院ボランティアを随時募集
慶應義塾大学	×	×	大学公認ボランティアサークル「ライチウス会」など複数の活動がある。国際ボランティア多数(JAVO、NPO法人JAPANボランティア協会、ボランティア証明書も発行しているが手数料として3000円かかる病院ボランティアは随時募集。
県立保健福祉大学	○	○	ヒューマンサービスセンターにて地域社会への貢献を推進している
國學院大學	○	×	ボランティアステーションにて大学主催行事サポート、サークルの紹介をしている
国際医療福祉大学	○	×	二つのボランティアセンターを持ち、学生の活動をサポートしている
相模女子大学	○	○	夢をかなえるセンターにてボランティア活動などを支援している 単位の認定もある
産業能率大学	×	×	SANNO Red Cross(赤十字ボランティア)日本赤十字社の活動に特化したボランティアサークルの活動などがある。
松蔭大学	×	×	LYNX 同好会がお祭りや体験活動を通して地域資源の価値を理解し、地域との継続的な関係を築いている
湘南医療大学	×	×	ボランティアサークル With(ウィズ) コンタクトの空ケースの回収、リサイクルによる収益を角膜の病気の方への治療に使われるよう活動している
湘南鎌倉医療大学	×	×	学生が立ち上げたボランティアサークル「ウオロンターテ」が地域社会に貢献することを目的に活動している 他、国際医療、災害医療サークルも活動している
湘南工科大学	×	×	ボランティアサークル「ウミソコ」地域のイベント活動やコミュニティ作りに積極的に参加。湘南の海を守り、持続可能な海洋環境の実現に向けて協力している
昭和医科大学	×	×	病院ボランティアを大学として募集し活動している
昭和音楽大学	×	×	音楽を通じた地域社会への連携や貢献を大学として目指してはいるようだ
女子美術大学	×	×	大学として地域自治体とコラボレートしながら、地域振興や教育・文化の発展プロジェクトを進め、女子美大の能力を社会に還元する活動はあるようだ
星槎大学	×	×	日本語教師養成コースのメンバーが石川県災害ボランティア活動を行ったり、星槎、國學院、玉川、桐蔭横浜、日体大、横浜美大の6大学が連携した「アオロク」サークルにて、地域の行事や活動に参加している
聖マリアンナ医科大学	×	×	大学病院内でボランティアの募集は随時している
専修大学	×	×	学生生活課内にボランティア推進委員会のもと、ボランティア担当職員を配置している 公認サークル「樹々の会」もある
洗足学園音楽大学	×	×	大学として被災地支援を企画し職員および学生によるボランティア活動に取り組んでいる
多摩大学	×	×	大学として「たまぱート」学生防犯パトロール隊を活動している 地域のお祭りなどもサポートしている
鶴見大学	×	×	大学として学生主体のボランティア活動をサポートしている
田園調布学園大学	○	○	履修し単位を取得出来る
桐蔭横浜大学	×	×	「Vinca～楽しい思い出～」というボランティアサークルはある
東海大学	×	○	児童教育学部に地域連携ボランティア科目がある 地域のイベントに大学がボランティア参加をしている
東京藝術大学	×	×	とびらプロジェクトは東京都美術館と東京藝術大学の連携事業
東京科学大学	×	×	学生ボランティアグループ(VG)の活動はある。他、大学としてクラウドファンディングに興味のある学生をサポートしている
東京工芸大学	○	×	ボランティア活動支援金制度がある (交通費、宿泊費、保険加入助成、活動補助金)

東京都市大学	×	×	地域連携活動を大学として実施している
東京農業大学	×	×	サークルや部活動として活動はしている
東洋英和女学院大学	×	×	社会連携センターにて地域のニーズや行政の課題に応えるためのプロジェクトを実施している
日本大学	○	×	ボランティア活動推進センターが活動を希望する学生に紹介している
日本映画大学	×	×	映像を通して地元川崎との交流活動を行なっている
日本体育大学	×	×	社会連携センター事務室にて地域や学校等で体育スポーツなど各種活動におけるボランティア派遣依頼を受け付けている
フェリス学院大学	○	○	単位認定など、学校としてボランティア活動からの学びの価値を学生に伝えている
文教大学	×	×	大学に届くボランティア情報を学生に提供している
放送大学	×	×	各地域の学習センターが学生の活動を取りまとめている 地域貢献プロジェクトを学長裁量経費にて実施している
明治大学	○	×	活動に対する助成金給付制度がある（旅費・交通費、保険料など支給）
明治学院大学	○	×	ボランティアファンド学生チャレンジ支援グッズを販売しファンド資金としている
八洲学園大学	×	○	ボランティアに関する公開講座を開講している
横浜国立大学	×	×	大学としての社会貢献・地域連携の取り組みや、学生による「学生キャンパスボランティア制度」
横浜商科大学	×	○	履修科目として「ボランティア活動演習」を開講している 社会連携・地域連携活動も行なっている
横浜国立大学	○	×	地域課題解決を目指す独自プログラムの企画運営している 補助金制度がある
横浜創英大学	×	×	救急サークル「TAAP」と学生消防団員が熱中症予防広報活動に参加したり、リラクゼーションサークルが認知症啓発イベントに参加し、ハンドトリートメントのボランティア活動を行うなどしている
横浜美術大学	×	×	近隣の小学校でワークショップの開催や、中学校でアシスタントティーチャーなど学校主催で実施している
横浜薬科大学	×	×	大学周辺の清掃活動、ウォーキング活動を通じ地元住民と交流している
ZEN 大学	×	×	ボランティア活動は大学として行なっていないが、地域社会を学びの場とするカリキュラムはある

3：今後のボランティア活動

3-1 ボランティアコーディネーターの重要性

学生がボランティア活動を行う過程において、いかにボランティアコーディネーターが学生と寄り添い関わるかが重要であるがレポートをまとめながら感じていたが、以下、そのポイントを川田虎男が論文中にまとめている。

1. 学生の主体性を引き出すファシリテーターとしての関わり
2. 意欲や能力に応じた段階的な関わり
3. 学生が様々な立場の人と協働する際に対等・公平に関係を構築出来るような場の設定
4. 活動全体に通じた創造的なリフレクション
5. 全体を通じて、指示・指導ではなく受容・共感に基づく支持的な関わり（P53）

教育的視点からの確かな導きをするためには、このような関わりを持つことの出来る専門的なボランティアコーディネーターが必要不可欠で、学生はこうした専門家が寄り添うことで活動を主体的に取り組み、より多くを学び、良き自己形成も促進される。結果、社会にも有益な結果をもたらすのだ。

3-2 日本ボランティアコーディネーター協会

2001（平成13）年1月27日に特定非営利法人「日本ボランティアコーディネーター協会」が市民の社会参加意識を高め、積極的に行動することを支える専門スタッフとして「ボランティアコーディネーター」の存在が重要であると考へ、そのネットワークを築き、専門性の向上と社会的認知をすすめる、専門職としての確立を図ることを目的として設立された。

協会では、2009（平成21）年から「ボランティアコーディネーション力検定（1～3級）」を確立し、理解と専門性を高める仕組み作りを導入しているが、国家資格のような公の制度や、民間の付与する認定制度には至っていない。

（2024（令和6）年時点での合格者（1～3級）は累計6,742名、神奈川県においても、明治大学、中央大学、横浜国立大学、青山学院大学などのボランティアセンターを有するスタッフや、社会福祉協議会のスタッフが合格している。

3-3 神奈川県と JAPAN ボランティア協会

そして、更に日本社会においてボランティア活動が活発に行われるよう支援することを目的とし、ボランティア活動に対する証明書の発行や、広く一般市民がボランティア活動に従事できるようボランティアに関する基盤の整備、多種

多様なボランティア活動の企画・運営などを行うため、2014（平成26）年1月には「特定非営利法人JAPAN ボランティア協会」設立され、近年、神奈川県との連携が以下の通り報告されている。

2024（令和6）年10月16日

神奈川県、特定非営利法人JAPAN ボランティア協会及び株式会社デジタルガレージは、環境ボランティアを支える仕組みの構築に向けた連携協定を締結した。

2025（令和7）年9月8日

連携協定のもと、より多くの方にボランティア活動に参加いただけるよう、参加者にボランティア証明書を発行する実証を行い、その証明書を大学の学校推薦選抜や就職活動等の際に活用できる仕組みの構築を目指している。

ボランティア活動に対する社会的価値を上げるべく神奈川県は動き出してはいるのだ。

3-4「ともに生きる」を実現する神奈川県へ

今後、例えば、神奈川県に所在する大学全てが日本ボランティアコーディネーター協会と連携し、ボランティアセンターを構え、専門家としてコーディネーターの配置をすることは出来ないだろうか。また、行政が関わり、コーディネーター検定を公の資格として認定することは出来ないだろうか。

各大学は、ボランティアを学び、実際に経験することは教育的価値のあることを明確に示し、ボランティア活動をスタンダード化し、構えたセンターを通して学生が社会の課題と向き合い、それに対して打開をするための策を関係者と共に模索し、方向性を見出し、実際に挑戦をし、そこから得られる結果を振り返るという一連のプロセスを経験することが出来るボランティア活動へのサポート体制を整えて欲しい。

活動過程にこそ教育的意義があるわけで、いわゆる単発のボランティア体験ではないからこそこれを支える体制作りが重要だ。価値あるボランティア活動を経験した学生は、その後、実社会に出た後も社会参加意識は高く持つことが期待出来るはずだ。

地域コミュニティの衰退を防ぎ、信頼感のある社会を構築するためには、ボランティア活動にも変化が必要で、新しい基盤作りに若者達が関わることはひとつの重要なポイントとなる。行ったボランティア活動に対する評価を明確にすることも大切だが、是非、行政にはこの点に注目をし、神奈川県を抱える課題である地域創生や産業振興、地域おこしやまちづくりを打開するソーシャル・キャピタルの形成に邁進して欲しい。

おわりに

私は、海外留学中に何度か「どんなボランティア活動をしていますか」と質問されたことを思い出した。社会活動のひとつとしてボランティア活動への価値観の高い海外と日本との温度差を感じた記憶だ。日本人の基本的な価値観として、己を犠牲にして他人のために奉仕することは「当たり前」という考え方があって、そもそもボランティアは評価されるためにするものではなく、自発的にするものという考えがあるので、ボランティア活動が日本ではなかなか広がりなかつたとも言われる。

しかし、今、時代は移り変わり、社会はより複雑化した故、人のつながりや個人の成長、そして豊かな社会に向けて、あらたなボランティアのかたちが必要となっている。

「私たちの生きるかながわ」の未来に向けて、その未来を担う若者が積極的に関わる体制創りが進むことを願わずにはいられない。

最後に、この秋の旅行中、ボランティアガイドをしている方に偶然道を尋ねることがあった。その方は、突然の出来事にも関わらず目的のバス停までガイドをしながら同行して下さった。これぞ日頃、ボランティア活動に関わり、培われた精神であると感銘を受けた。助けが必要な時に手を差し伸べることの出来る人の多い社会は豊かで暖かいことに間違い無い。

参考文献

- ・神奈川県立保健福祉大学 顧問・名誉教授 山崎 美貴子「大学におけるボランティアの重要性と意義について」『かながわ政策研究・大学連携ジャーナル No.11』2017.3
- ・柳澤智美・牧野郁子・鹿山朝香「大学生ボランティアによる地域連携と人材育成～地域と大学の役割～」『城西大学・城西短期大学地域連携センター 第5号』2025年
- ・川田虎男「ボランティア活動が大学生の自己形成に与える影響と支援者の役割～ボランティア概念が孕む矛盾点に着目して～」『立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科 比較組織ネットワーク学専攻』（2021（令和3）年度博士論文）
- ・神奈川県 福祉子どもみらい局共生推進本部室「『ともに生きる社会かながわ憲章』ポータルサイト」『神奈川県』<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/m8u/cnt/f535463/index.html>（参照日 2025年10月26日）
- ・神奈川県 「大学連携ポータルサイト 県内大学一覧」『神奈川県』<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/bs5/cnt/f6238/p16778.html>（参照日 2025年8月26日）
- ・厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課「ボランティアについて」『厚生労働省』2007年12月
https://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/12/dl/s1203-5e_0001.pdf（参照日 2025年10月26日）
- ・厚生労働省 生活保護・福祉一般 「福祉・介護 ボランティア活動」『厚生労働省』
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/seikatsuhogo/volunteer/index.html（参照日 2025年12月14日）
- ・政府統計の総合窓口（e-Stat）「学校基本調査 / 令和7年度 高等教育機関 学校調査 学校調査票（大学・大学院）」
<https://www.e-stat.go.jp/stat->

search/files?page=1&query=%E9%83%BD%E9%81%93%E5%BA%9C%E7%9C%8C%E5%88%A5%E3%80%80%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E5%AD%A6%E9%83%A8%E5%AD%A6
E7%94%9F%E6%95%B0&layout=dataset&stat_infid=000040392726 (参照日 2025 年 12 月 29 日)

- ・ 国立教育政策研究所「V 基礎データ」 https://warp.ndl.go.jp/web/20250803003932/https://www.nier.go.jp/jissen/book/r04/pdf/r04volunteer_05.pdf (参照日 2025 年 12 月 28 日)
- ・ JAPAN ボランティア協会 <https://javo.or.jp/> (参照日 2025 年 10 月 26 日)
- ・ 文部科学省「各都道府県における高等教育の 現状に関する調査研究 都道府県別基礎データ」
https://www.mext.go.jp/content/20250625-mxt_daigaku01-000042828_1.pdf (P37) (参照日 2025 年 11 月 23 日)
- ・ 社会福祉法人全国社会福祉協議会「分野別の取り組み 社会福祉・ボランティア」『社会福祉法人全国社会福祉協議会』
<https://www.shakyo.or.jp/bunya/chiki/index.html> (参照日 2025 年 10 月 26 日)
- ・ 特定非営利法人日本ボランティアコーディネーター協会 <https://jvca2001.org/> (参照日 2025 年 10 月 26 日)
- ・ 日本財団ボランティアセンター「全国学生 1 万人アンケート ～ボランティアに関する意識調査 2023～」 <https://www.volacen.jp/pdf/2023-student-volunteers-survey.pdf>
(P3,P7) (参照日 2025 年 9 月 21 日)

・表①

- 「ボランティアについて」『青山学院大学』 <https://www.aoyama.ac.jp/life/volunteer/aboutvolunteer.html> (参照日 2025 年 9 月 21 日)
- 麻布大学 <https://www.azabu-u.ac.jp/community/> (参照日 2025 年 9 月 21 日)
- 「社会・地域連携」『桜美林大学』 https://www.obirin.ac.jp/society/community_cooperation.html (参照日 2025 年 9 月 21 日)
- 「学生生活」『スポーツ (ボランティア)』『桜美林大学』 https://www.obirin.ac.jp/campus_life/#anc_03 (参照日 2025 年 9 月 21 日)
- 「学生ボランティア活動支援室」『神奈川大学』 https://www.kanagawa-u.ac.jp/volunteer_support/ (参照日 2025 年 9 月 21 日)
- 「学生防犯ボランティア KITE BLUE NEWS」『神奈川工科大学』 <https://www.kait.jp/news/776.html> (参照日 2025 年 9 月 21 日)
- 神奈川歯科大学 <https://www.kdu.ac.jp/top/> (参照日 2025 年 9 月 21 日)
- 鎌倉女子大学 <https://www.kamakura-u.ac.jp/index.html> (参照日 2025 年 9 月 21 日)
- 川崎市立看護大学 <https://www.kawasaki-cn.ac.jp/> (参照日 2025 年 9 月 21 日)
- 「プロジェクト 03 法学部 地域創生まじゅんプロジェクト」『関東学院大学』 https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/social_collaboration/project03.html (参照日 2025 年 9 月 21 日)
- 北里大学 <https://www.kitasato-u.ac.jp/jp/index.html> (参照日 2025 年 9 月 21 日)
- 慶應義塾大学 <https://www.keio.ac.jp/ja/> (参照日 2025 年 9 月 21 日)
- 「地域貢献」『泉立保健福祉大学』 <https://www.kuhs.ac.jp/cooperation/local/> (参照日 2025 年 9 月 21 日)
- 「ボランティアに参加したい学生の方へ」『國學院大学』 <https://www.kokugakuin.ac.jp/student/lifesupport/pl1-2/p2> (参照日 2025 年 9 月 21 日)
- 国際医療福祉大学 <https://www.iuhw.ac.jp/> (参照日 2025 年 9 月 28 日)
- 昭和医科大学 <https://www.showa-u.ac.jp/> (参照日 2025 年 12 月 7 日)
- 「社会・地域との連携」『昭和音楽大学』 <https://www.tosei-showa-music.ac.jp/guide/association/> (参照日 2025 年 12 月 7 日)
- 「社会との連携」『女子美術大学』 https://www.joshibi.ac.jp/outreach/coalition_bk (参照日 2025 年 12 月 7 日)
- 星槎大学 <https://www.seisa.ac.jp/> (参照日 2025 年 12 月 7 日)
- 「アオロクってなに？」『星槎大学』 <https://star.seisa.ac.jp/file/195501> (参照日 2025 年 12 月 7 日)
- 聖マリアンナ医科大学 <https://www.marianna-u.ac.jp/> (参照日 2025 年 12 月 7 日)
- 「専修大学ボランティア推進委員会」『専修大学』 <https://www.senshu-u.ac.jp/campuslife/volunteer/volunteer.html> (参照日 2025 年 12 月 7 日)
- 「学生生活」『専修大学』 <https://www.senshu-u.ac.jp/campuslife/volunteer/volunteer2.html> (参照日 2025 年 12 月 7 日)
- 洗足学園音楽大学 <https://www.senzoku.ac.jp/music/> (参照日 2025 年 12 月 7 日)
- 「学生ボランティア・地域活動関連情報」『多摩大学』 <https://www.tama.ac.jp/cooperation/managementcenter/volunteer.html> (参照日 2025 年 12 月 7 日)
- 「課外活動」『ボランティア』『鶴見大学』 <https://www.tsurumi-u.ac.jp/site/campus/activities.html> (参照日 2025 年 12 月 7 日)
- 「地域交流」『田園調布学園大学』 <https://www.dcu.ac.jp/local/center/index.html> (参照日 2025 年 12 月 7 日)
- 桐蔭横浜大学 <https://toin.ac.jp/univ/> (参照日 2025 年 12 月 7 日)
- 「タグ一覧」『ボランティア』『東海大学』 <https://www.u-tokai.ac.jp/tag/keyword/volunteer/> (参照日 2025 年 10 月 26 日)
- 東京藝術大学 <https://www.geidai.ac.jp/> (参照日 2025 年 10 月 26 日)
- 「とびらプロジェクト」『東京都美術館×東京藝術大学』 <https://tobira-project.info/> (参照日 2025 年 10 月 26 日)
- 「ボランティア」『東京科学大学』 <https://www.titech.ac.jp/student-support/students/extracurricular/volunteer> (参照日 2025 年 10 月 26 日)
- 東京工芸大学 <https://www.t-kougei.ac.jp/> (参照日 2025 年 10 月 26 日)
- 「第六章 キャンパスライフ 課外活動編」『東京工芸大学』 https://www.t-kougei.ac.jp/static/file/campusguide2025_06_arts.pdf (参照日 2025 年 10 月 26 日)
- 東京都立大学 <https://www.tcu.ac.jp/> (参照日 2025 年 10 月 26 日)
- 東京農業大学 <https://www.nodai.ac.jp/> (参照日 2025 年 10 月 26 日)
- 「社会連携」『東洋英和女学院大学』 https://www.toyoewia.ac.jp/daigaku/kenkyu/syakai_renkei/ (参照日 2025 年 10 月 26 日)
- 「学生生活」『学生ボランティア活動について』『日本大学』 <https://www.nihon-u.ac.jp/campuslife/nuvc/> (参照日 2025 年 10 月 26 日)
- 「地域・社会連携」『日本映画大学』 <https://www.eiga.ac.jp/about/society> (参照日 2025 年 10 月 26 日)
- 「クラブ・サークル」『産業能率大学』 <https://www.sanno.ac.jp/undergraduate/campuslife/club/index.html> (参照日 2025 年 10 月 26 日)
- 松蔭大学 <https://www.shoin-u.ac.jp/> (参照日 2025 年 10 月 26 日)
- 相模女子大学 <https://www.sagami-wu.ac.jp/> (参照日 2025 年 10 月 26 日)
- 「ボランティアサークル」『湘南医療大学』 <https://sums.ac.jp/examinee-support/studentlife/circleactivity/volunteer.html> (参照日 2025 年 10 月 26 日)
- 「学生会・サークル」『湘南鎌倉医療大学』 https://www.sku.ac.jp/student_circle/ (参照日 2025 年 10 月 26 日)
- 「社会貢献活動」『湘南工科大学』 <https://www.shonan-it.ac.jp/faculties/general/society-education/social-contribution/> (参照日 2025 年 10 月 26 日)
- 「ボランティアサークル」『ウミソコ』『湘南工科大学』 <https://www.shonan-it.ac.jp/public/crc/umisoko240501/> (参照日 2025 年 10 月 26 日)
- 「ボランティア派遣」『日本体育大学』 <https://www.nittai.ac.jp/about/approach/volunteer.html> (参照日 2025 年 10 月 26 日)
- 「ボランティアセンター」『フェリス学院大学』 <https://www.ferris.ac.jp/life/volunteer-center/about/> (参照日 2025 年 10 月 26 日)
- 文教大学 <https://www.bunkyo.ac.jp/> (参照日 2025 年 10 月 26 日)
- 「地域貢献への取組」『放送大学』 <https://www.ouj.ac.jp/pj/> (参照日 2025 年 10 月 26 日)
- 明治大学 <https://www.meiji.ac.jp/> (参照日 2025 年 10 月 26 日)
- 明治学院大学 <https://www.meijigakuin.ac.jp/> (参照日 2025 年 10 月 26 日)
- 八洲学園大学 <https://yashima.ac.jp/univ/> (参照日 2025 年 10 月 26 日)
- 横浜国立大学 <https://www.ynu.ac.jp/> (参照日 2025 年 10 月 26 日)
- 横浜商科大学 <https://www.shodai.ac.jp/> (参照日 2025 年 10 月 26 日)
- 横浜市立大学 <https://www.yokohama-cu.ac.jp/> (参照日 2025 年 10 月 26 日)
- 横浜創英大学 <https://www.soiei.ac.jp/> (参照日 2025 年 10 月 26 日)
- 横浜美術大学 <https://www.yokohama-art.ac.jp/> (参照日 2025 年 10 月 26 日)
- 横浜薬科大学 <https://www.hamayaku.ac.jp/> (参照日 2025 年 10 月 26 日)
- ZEN 大学 <https://zen.ac.jp/> (参照日 2025 年 12 月 7 日)